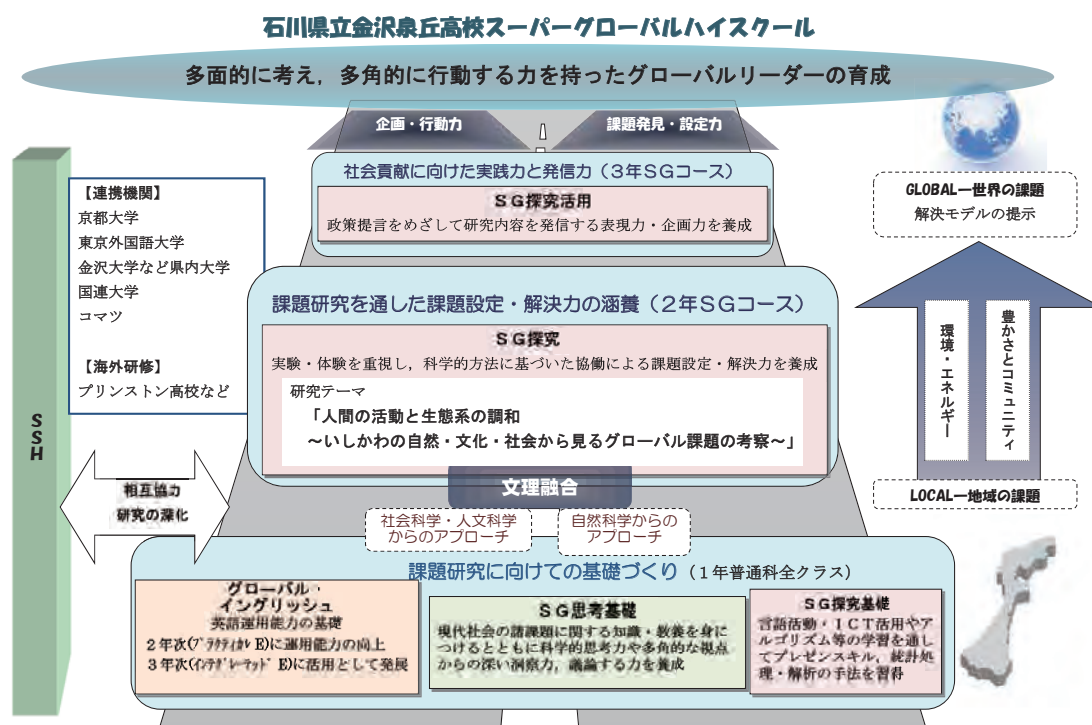


石川県立金沢泉丘高等学校

多面的に考え、多角的に行動する力を持った グローバル・リーダーの育成

【構想の概要】

グローバル社会に対応する基盤となる国際的素養や探究スキル等の習得、スーパーグローバル大学やグローバル企業等との連携、国内フィールドワーク、海外成果発表等の体験、文理融合を意識した学習の取組等を通し、課題発見力・主体的解決力を向上させ、グローバル・リーダーに必要な力や資質を育成する。



■ 1週間の授業時間数（平成29年度入学者に適用する教育課程）

		0	5	10	15	20	25	30	33	34
1年	普通科	国語 5	地歴 2	数学 6	理科 2	保健体育 3	芸術 2	英語 6	家庭 2	情報 SG教養 3 総合 4
	理数科	国語 5	地歴公民 2	数学 7	理科 5	保健体育 2	芸術	英語 6	情報 人間科学 2	総合 4
2年	SG(文型)	国語 6	地歴 6	数学 6	理科 4	保健体育 3		英語 6		総合 2 総合 4
	SG(理型)	国語 5	地歴 3	数学 6	理科 8	保健体育 3		英語 6		総合 2 総合 4
	普通(文型)	国語 6	地歴 6	数学 6	理科 4	保健体育 4		英語 5		総合 2 総合 4
	普通(理型)	国語 5	地歴 3	数学 6	理科 8	保健体育 4		英語 6		総合 2 総合 4
	理数科	国語 5	地歴 3	数学 6	理科 5	保健体育 2	芸術	英語 6	情報 人間科学 2	総合 4
3年	SG(文型)	国語 5	地歴公民 7	数学 7	理科 4	保健体育 3		英語 6		総合 2 総合 4
	SG(理型)	国語 5	地歴 3	数学 7	理科 8	保健体育 3		英語 6		総合 2 総合 4
	普通(文型)	国語 6	地歴公民 7	数学 6	理科 4	保健体育 3		英語 6		総合 2 総合 4
	普通(理型)	国語 5	地歴 3	数学 7	理科 8	保健体育 3		英語 6		総合 2 総合 4
	理数科	国語 5	地歴 3	数学 7	理科 8	保健体育 3		英語 6		総合 2 総合 4

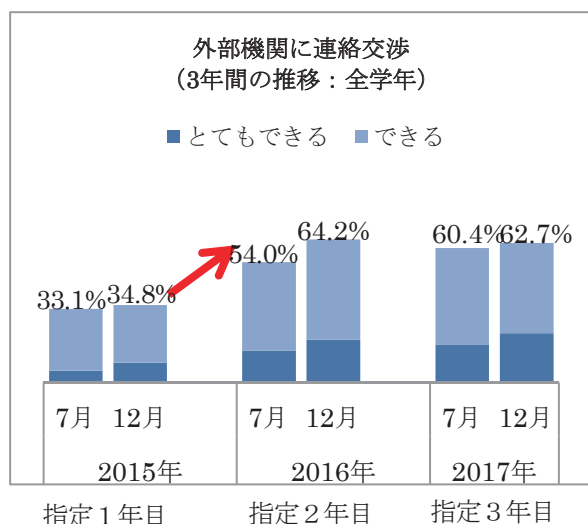
探究型学習を軸とした新たなカリキュラム開発

課題研究において、「課題発見→仮説→調査・実験による実証→データ分析→考察→新たな課題発見」の学習サイクルにもとづくプログラムを開発してきた。その中で生徒は、探究型のスキル、すなわち「課題発見力」「論理的思考力・表現力」「情報収集力・分析力」「ディスカッション力」を着実に獲得してきたと見ている。

1年次には、課題研究に向けての基礎づくりとして、プレゼンテーションのスキルや統計学に基づいたPPDACによる課題解決の手法を身につけるプログラムを展開し、2年次の課題研究につなげている。SGコースの課題研究においては、グループで協働の力を養いながら、フィールドワークを通した実証的な研究を行わせている。最終的には、口頭発表、ポスター発表、論文といった表現方法をすべて体験させ、日本語での論理的思考力や表現力を磨く機会を与えている。3年次には、これまで進めてきた研究を再度グローバルな視点でとらえ直した上で、英語による発表を行う。

1年から3年までを通したデザインにより、系統立ったカリキュラムとなり、その間に何度もアウトプットの機会を取り入れることで、「失敗」を次につなげ、「成長」へと発展させるものとしている。

課題研究の過程で、様々な体験が生徒の自己肯定感を高めてきたことは、年2回実施しているアンケートからうかがうことができるが、中でもフィールドワークの環境を整え推奨したことにより、「主体的行動力」の項目が飛躍的に向上したことは特筆



に値する（グラフ）。このことは、ややもすると社会と切り離された中で完結していた従来の学校教育のあり方に対して、社会とのつながりを踏まえた「社会に開かれた教育課程」の必要性を裏づけるものといえよう。

文理融合プログラムの開発

本校ではグローバルリーダーの育成の理念として、文理の枠を超えて、複数の学問分野を俯瞰・統合し、問題解決をはかる力を涵養することを掲げた。

そのためにも、SGコースは文型・理型が混在するクラスとした上で、課題研究においても必ず文型・理型の生徒が協働で研究を進めるようにしている。社会問題の解決を本校の課題研究のテーマとしているが、そこに実験や統計等の理系的手法を用いるように促し、多面的に考え多角的に行動することを追求させている。

また、1年次においては、学校設定科目「SG思考基礎」で、公民・理科のチームティーチングにより、教科横断的な探究活動を実施している。テーマも、環境・エネルギー問題、SDGsと科学技術といった、文理両方の知見が求められるものを扱っており、「文理融合」のプログラムとして普通科全生徒に両分野を俯瞰する力の重要性を学ばせている。

教員の組織的取組と変化

新しいカリキュラム開発にあたり、SGHプロジェクトチームを編成、この中でプログラムの具体化や検証など様々なことについて議論、提案を行ってきた。また、全学年で取り組む課題研究での担任・副担任の協働、公民科と理科の教員でも教材やプログラム作成を進めた「SG思考基礎」など、専門性を有した高校教員が、その教科・科目の壁を取り払って、育成すべき生徒の力について議論しながらベクトル合わせをする機会が生まれたことは、この研究開発の大きな成果といえよう。

